

秋田のりんごメッセンジャー

東京都江戸川区第二葛西小学校 六年 井上 開晴

今年も秋田のおばあちゃんから真っ赤なりんごが届きました。小さくて少し傷があるけれど、僕はこのりんごが大好きです。

僕の実家がある秋田県は、お米のあきたこまちの産地で有名ですが、夏と冬の寒暖差があり、きれいな水と豊かな土地がりんごの栽培にも適している地域です。たくさんある品種の中でも、僕の一番のお気に入りにはシャキツとした食感と蜜が入った甘い果汁の「ふじりんご」。地元の農協で作っているりんごジュースもお土産として人気です。

しかし、最近が高齢化によるりんご農家の後継者不足が問題になっています。実家に帰省した時におばあちゃんがりんご山の木が無くなっていました。

「どうして木を切ってしまったの？」と聞いたら、

「手入れしていないと害虫がついてしまうからだよ。」と教えてくれました。今年も熊がりんごの木を傷つけるために被害を受けた農家もあるそうです。

地元の農家では、りんご栽培で一番大変な作業とされている摘花やせん定作業を全て手作業で行っています。木の高い所も高齢の農家さんが脚立を使って作業をしました。また、害虫や病気を防ぐために、化学肥料や農薬を使う必要がありますが、できるだけ薬剤に頼らず、除草や摘果作業も手作業で環境に優しい栽培をしていることを知りました。

このように、りんご農家の方々の努力や工夫を知り、食べる人へ安全で美味しいりんごを食べて欲しいという思いが詰まっていることに気付きました。不揃いでも少し傷がついていても、一つのりんごも無駄にすることはできないなど感じました。

最近、県や農協などを中心に若手農業者の支援や新しい品種の開発も行われています。僕も来年秋田に帰省した時は、りんご農家さんと摘花作業に挑戦したいと思います。そして、僕の大好きな秋田りんごのメッセンジャーとして、情報を発信していきたいです。